CASBEE™ すまい[戸建]

評 価 ソ フ ト

バージョン	CASBEE-H(DH)_2007(v2.0)
■使用評価マニュアル:	CASBEE-すまい(戸建)(2007年版)

1)概要入力

① 建物概要

■建物名称	参考ﾓﾃﾞﾙ住宅		
■竣工年月 (予定/竣工)	2010年5月		予定
■建設地	長野県		確定
■用途地区	準工業地域		
■省エネルギー地域区分	Ⅱ		
■パッシブ地域区分	ろ		
■構造・構法	木造・軸組構法		確定
■階数	地上2F		
■敷地面積	402.96	㎡	確定
■建築面積	90.82	㎡	確定
■延床面積	145.35	㎡	
■世帯人数	4人		確定

② 仕様等の確定状況

■建物の仕様	確定
■持ち込み家電等	一部確定
■外構の仕様	一部確定
■備考	

③ 評価の実施

■ 評価の実施日	2010年1月8日
■ 作成者	つくった方のお名前
■ 確認日	2010年1月19日
■ 確認者	評価員の名前

CASBEE™ すまい[戸建] ▌評価結果▐

■使用評価マニュアル:CASBEE-すまい（戸建）（2007年版）■使用評価ソフト:¥SBEE-H(DH)_2007(v2.0)

1-1 建物概要

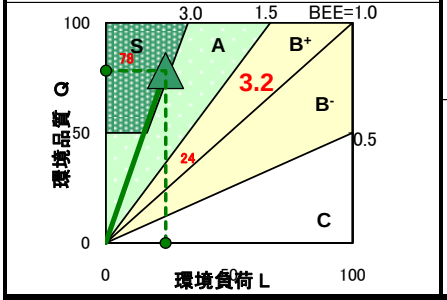
建物名称	参考ﾓﾃﾞﾙ住宅	
竣工年月	2010年5月	予定
建設地 用途地域 省ｴﾈﾙｷﾞｰ地域区分	長野県 準工業地域 Ⅱ	確定
構造・構法 階数	木造・軸組構法 地上2F	確定
敷地面積	403 ㎡	確定
建築面積 延床面積	91 ㎡ 145 ㎡	確定
世帯人数	4人	確定

仕様等の確定状況	建物の仕様	確定
	持ち込み家電等	一部確定
	外構の仕様	一部確定
<備考>		
評価の実施日	2010年1月8日	
作成者	つくった方のお名前	
確認日	2010年1月19日	
確認者	評価員の名前	

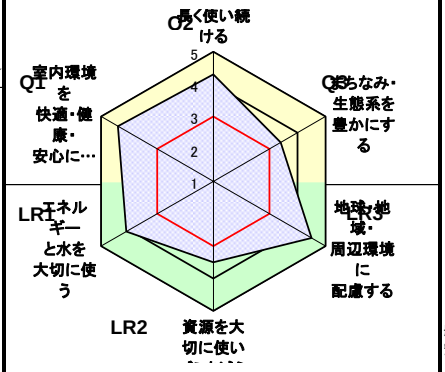
1-2 外 観

2-1 すまいの環境効率（BEEランク&チャート）

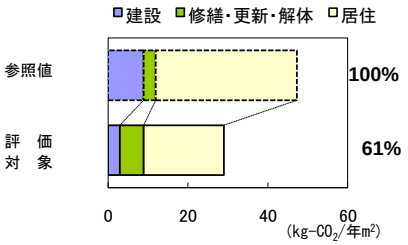
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 大項目の評価（レーダーチャート）



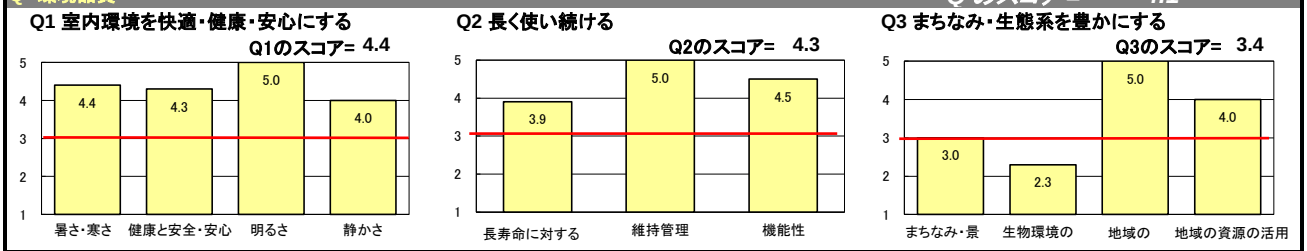
2-3 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)



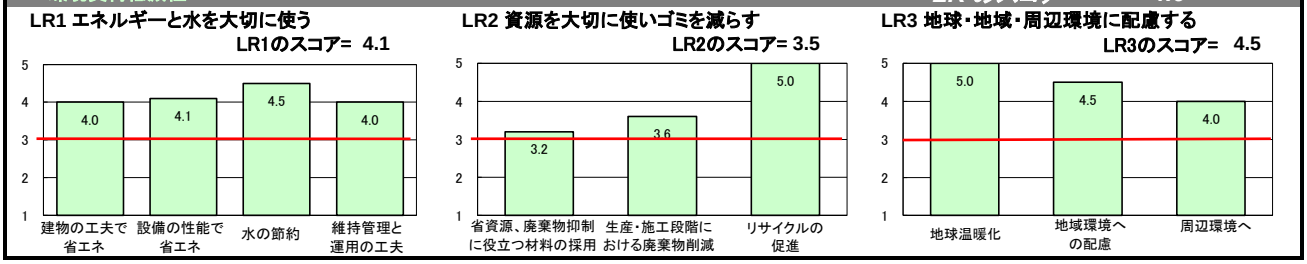
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　Q のスコア= 4.1



LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 4.0



3 設計上の配慮事項

総合

●高齢者が同居する住まいとして、特に温熱環境・高齢者への配慮に留意した。●内装は木の質感・温もりが感じられる、居心地の良い空間となるように心がけた。●光熱費が削減できるような設備機器を導入した。●近隣住宅・街区との調和のとれた外観に配慮した。

その他

●新築計画建物周辺は、埋蔵文化財包蔵地に指定されており、考古学専門家による立会い試掘調査を行う

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

●次世代断熱仕様、樹脂サッシLow-Eガラスの採用などによる冷暖房負荷の軽減、換気通風、日射調整への配慮をした●VOC等に関連する材料は全てF☆☆☆☆仕様とした。●外部廻り開口部サッシ等は全て2重ロック機能付とした。

Q2 長く使い続ける

●地盤調査に基づく積雪を考慮した安全な基礎形状を考慮した。●基本構造となる土台・柱に耐久性のある檜、杉材料を使用し、他構造材にも国産材100%使用とした。●排水スリーブ方式・ヘッダ方式配管など維持管理、交換等を考慮した配管方式

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

●近隣住宅・街区との調和を重視し、既存の緑地を全てそのまま残し、維持した。●構造材には、できる限り県産材の檜、杉、唐松等を使用した。

LR1 エネルギーと水を大切に使う

●南面開口部を広く取り、パッシブな省エネルギー対策とし、屋根には5.1kwの太陽光発電システムを設置した。●照明等は極力蛍光灯やLEDランプのものを採用、省エネ超寿命の製品を採用した。

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

●生産段階における廃棄物削減については積極的対策を講じていないが、施工現場においては、リサイクル推進に対する資料を施工者に提供し、着工前に説明を実施する。●内装に少資源・廃棄物抑制材料（石膏ボード等）を使用している

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

●現状の地形は、そのまま保全し、既存の樹木は極力保存した上で、新規に植栽する樹木は雑木を中心に選定する。●騒音・振動・排気・排熱に関しては、発生しない機器を選択した結果エアコンの室外機のみとなり、使用期間も冷房時期に限定されるため、周辺への影響は少ない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency（建築物総合環境性能評価システム）

CASBEE-すまい（戸建）(2007年版)
参考モデル住宅

■使用評価マニュアル：CASBEE-すまい（戸建）(2007年版)
■評価ソフト：CASBEE-H(DH)_2007(v2.0)

スコアシート

配慮項目	具体的な取組み一覧	評価点	重み係数	全体
Q_H すまいの環境品質				**4.1**
Q_H1 室内環境を快適・健康・安心にする			**0.45**	**4.4**
1 暑さ・寒さ		**4.4**	0.50	**4.4**
1.1 基本性能		**4.3**	0.50	
1 断熱・気密性能の確保	長期優良住宅により等級4取得予定、断熱区分Ⅱ地域	5.0	0.65	
2 日射の調整機能	普通複層ｶﾞﾗｽ0.79、ｶｰﾃﾝ0.67、よって日射侵入率は0.52	3.0	0.35	
1.2 夏の暑さを防ぐ		**4.0**	0.25	
1 風を取り込み、熱気を逃がす	LDK、寝室1、寝室2には2方向に開口部がある。	3.0	0.50	
2 適切な冷房計画	LDK4.0kw寝室2.8kw予定	5.0	0.50	
1.3 冬の寒さを防ぐ		**5.0**	0.25	
1 適切な暖房計画	全ての居室にパネルヒーター設置	5.0	1.00	
2 健康と安全・安心		**4.3**	0.30	**4.3**
2.1 化学汚染物質の対策	内装・天井裏使用材料の全てがF☆☆☆☆等級相当である。	**5.0**	0.33	
2.2 適切な換気計画	局所換気+第3種換気システムを採用	**5.0**	0.33	
2.3 犯罪に備える	全ての開口部に鍵が2箇所以上設置されている。	**3.0**	0.33	
3 明るさ		**5.0**	0.10	**5.0**
3.1 昼光の利用	単純開効率29% LDK、他居室は南面より有効採光面積を確保できる。	**5.0**	1.00	
4 静かさ	全ての開口部サッシ遮音性はT-1（Rm(1/3)-20）相当以上	**4.0**	0.10	**4.0**
Q_H2 長く使い続ける		–	**0.30**	**4.3**
1 長寿命に対する基本性能		**3.9**	0.50	**3.9**
1.1 躯体	長期優良住宅により等級3取得予定	**5.0**	0.30	
1.2 外壁材	外部仕様はﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ弾性ﾀｲﾙ吹付け	**3.0**	0.10	
1.3 屋根材、陸屋根	屋根材は陶器洋瓦を使用する。	**5.0**	0.10	
1.4 自然災害に耐える	長期優良住宅により等級2を取得予定	**4.0**	0.30	
1.5 火災に備える		**2.0**	0.20	
1 火災に耐える構造（開口部以外）	性能評価耐火等級1（建物周辺状況や防火基準地域外であることを考慮した）	1.0	0.65	
2 火災の早期感知	性能評価感知警報装置等級2（全居室、階段上に火災警報器設置）	4.0	0.35	
2 維持管理		**5.0**	0.25	**5.0**
2.1 維持管理のしやすさ	長期優良住宅により等級3取得予定、給水配管ﾍｯﾀﾞｰ方式採用	**5.0**	0.65	
2.2 維持管理の体制	JBN住宅履歴システムを使用する。	**5.0**	0.35	
3 機能性		**4.5**	0.25	**4.5**
3.1 広さと間取り	4人家族、延べ床145.35㎡、各所に収納ｽﾍﾟｰｽ確保	**4.0**	0.50	
3.2 バリアフリー対応	住宅性能評価高齢者等配慮対策等級4を取得	**5.0**	0.50	
Q_H3 まちなみ・生態系を豊かにする		–	**0.25**	**3.4**
1 まちなみ・景観への配慮	長期優良住宅環境基準（法第6条1項3号）に適合	**3.0**	0.30	**3.0**
2 生物環境の創出		**2.3**	0.30	**2.3**
2.1 敷地内の緑化	既存緑地を現状のまま維持管理する。	**2.0**	0.65	
2.2 生物の生息環境の確保	既存緑地を現状のまま維持管理する。	**3.0**	0.35	
3 地域の安全・安心	敷地境界は、低い生垣とする。外部ｾﾝｻｰﾗｲﾄ設置	**5.0**	0.20	**5.0**
4 地域の資源の活用と住文化の継承	長野県産の赤松・杉等を積極的に使用する。	**4.0**	**0.20**	**4.0**

CASBEE-すまい（戸建）（2007年版）

参考モデル住宅

■使用評価マニュアル：CASBEE-すまい（戸建）（2007年版）
■評価ソフト：CASBEE-H(DH)_2007(v2.0)

LR_H すまいの環境負荷低減性			-	-	**4.0**
LR_H1 エネルギーと水を大切に使う			-	0.35	**4.1**
1 建物の工夫で省エネ			**4.0**	0.35	**4.0**
1.1 建物の熱負荷抑制		性能評価省エネルギー対策等級Ⅱ地域等級4を取得	**5.0**	0.50	
1.2 自然エネルギー利用		暖房：ろ地域・立地3・方位2・手法1、冷房：取り組み無し	**3.0**	0.50	
2 設備の性能で省エネ			**4.1**	0.40	**4.1**
2.1 暖冷房設備					
	1 暖房設備	深夜電力蓄熱式暖房システム	3.0		
	2 冷房設備	平均的な冷房機器を使用	3.0		
2.2 給湯設備					
	1 給湯機器	深夜電力蓄熱式給湯システム	3.0		
	2 浴槽の断熱	基礎断熱空間内に断熱保温浴槽を設置	5.0		
	3 給湯配管	ﾍｯﾀﾞｰ方式採用、給湯配管5m以下・断熱被服あり	5.0		
2.3 照明・家電・厨房機器		ｵｰﾙ電化住宅	**5.0**		
2.4 換気設備		年間消費電力2.7kwh/年・(m3/h)	**4.0**		
2.5 エネルギー利用効率化設備					
	1 家庭用コージェネレーションシステム	取り組み無し	3.0		
	2 太陽光発電システム	太陽光発電システム5.12KW搭載	0.1		
3 水の節約			**4.5**	0.15	**4.5**
3.1 節水型設備		トイレは1・2階に1箇所づつあり	**5.0**	0.75	
3.2 雨水の利用		取り組み無し	**3.0**	0.25	
4 維持管理と運用の工夫			**4.0**	0.10	**4.0**
4.1 住まい方の提示		住まいの手引き書がある。	**4.0**	0.50	
4.2 エネルギーの管理と制御		太陽光発電システムを導入することにより、消費電力をモニターできる。	**4.0**	0.50	
LR_H2 資源を大切に使いゴミを減らす			–	0.35	**3.5**
1 省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用			**3.2**	0.60	**3.2**
1.1 構造躯体			**5.0**	0.30	
	1 木質系住宅	構造材、羽柄材に国産材100%使用する。	5.0	1.00	
	2 鉄骨系住宅	―		-	
	3 コンクリート系住宅	―		-	
1.2 地盤補強材・地業・基礎		普通コンクリートセメントを使用	**3.0**	0.20	
1.3 外装材		躯体、外壁下地材に「持続可能な森林から算出された木材」が使われている。	**1.0**	0.20	
1.4 内装材		内装下地に持続可能な森林から算出された木材・石膏ボードが使われている。	**3.0**	0.20	
1.5 外構材		取り組み無し	**3.0**	0.10	
2 生産・施工段階における廃棄物削減			**3.6**	0.30	**3.6**
2.1 生産段階（構造用躯体部材）		取り組み無し	**3.0**	0.33	
2.2 生産段階（構造用躯体以外の部材）		取り組み無し	**3.0**	0.33	
2.3 施工段階		基礎メタルフォーム使用、プレカット利用の現場加工削減	**5.0**	0.33	
3 リサイクルの促進			**5.0**	0.10	**5.0**
3.1 使用材料の情報提供		使用材料のメーカー、製品名、型番等の情報表示を行っている。	**5.0**	1.00	
LR_H3 地球・地域・周辺環境に配慮する			–	0.30	**4.5**
1 地球温暖化への配慮			**5.0**	0.33	**5.0**
2 地域環境への配慮			**4.5**	0.33	**4.5**
2.1 地域インフラの負荷抑制		外構は透水性を有し、屋根雨水は敷地内地下浸透としている。	**4.0**	0.50	
2.2 既存の自然環境の保全		既存の植木は全てそのまま保持する。	**5.0**	0.50	
3 周辺環境への配慮			**4.0**	0.33	**4.0**
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減		騒音発生源はエアコンの室外機のみである。（敷地境界で45dB以下）	**3.0**	0.50	
3.2 周辺温熱環境の改善		壁面後退距離率65% ＞30%、 敷地内に舗装部分はない	**5.0**	0.50	

■LR_H1 太陽光発電による補正後のランクとスコア

2 設備の性能で省エネ			**4.1**	0.40	**4.1**
2.1 暖冷房設備			**3.6**	0.27	
	1 暖房設備		3.6	0.80	
	2 冷房設備		3.6	0.20	
2.2 給湯設備			**3.9**	0.37	
	1 給湯機器		3.6	0.80	
	2 浴槽の断熱		5.0	0.10	
	3 給湯配管		5.0	0.10	
2.3 照明・家電・厨房機器			**5.0**	0.25	
2.4 換気設備			**4.8**	0.05	
2.5 エネルギー利用効率化設備			**3.6**	0.06	
	1 家庭用コージェネレーションシステム		3.6	1.00	
	2 太陽光発電システム			-	

CASBEE-すまい（戸建）（2007年版）
参考モデル住宅

■使用評価マニュアル：　CASBEE-すまい（戸建）（2007年版）
■評価ソフト：　CASBEE-H(DH)_2007(v2.0)

ライフサイクルCO_2計算シート（標準計算用）

1. 建設に係るCO_2排出量

1-1. 評価結果のCO_2排出量への置き換え

Q_H2　長く使い続ける

			kg-CO_2/年m^2			kg-CO_2/年m^2 評価対象		kg-CO_2/年m^2 参照値	
1 長寿命に対する基本性能		構造の比率	レベル3	レベル4	レベル5	採点結果	CO_2排出量	採点結果	CO_2排出量
	1.1 躯体	木質系	8.92	4.46	2.97	5.0	2.97	3.0	8.92
		鉄骨系	15.05	7.53	5.02	5.0	5.02	3.0	15.05
		コンクリート系	16.83	8.42	5.61	5.0	5.61	3.0	16.83
	1.2 外壁材					3.0		3.0	
	1.3 屋根材、陸屋根					5.0		3.0	
2 維持管理									
	2.2 維持管理の体制					5.0		3.0	

1-2. 合計の計算

評価対象	参照値
2.97	8.92

2. 修繕・更新・解体に係るCO_2排出量

2-1. 評価結果のCO_2排出量への置き換え

Q_H2　長く使い続ける

			kg-CO_2/年m^2			kg-CO_2/年m^2 評価対象		kg-CO_2/年m^2 参照値	
1 長寿命に対する基本性能			レベル3	レベル4	レベル5	採点結果	CO_2排出量	採点結果	CO_2排出量
	1.1 躯体	木質系	3.02	5.08	5.98	5.0	5.98	3.0	3.02
		鉄骨系	2.85	5.21	6.21	5.0	6.21	3.0	2.85
		コンクリート系	3.13	4.98	5.62	5.0	5.62	3.0	3.13

2-2. 合計の計算

評価対象	参照値
5.98	3.02

3. 居住時のエネルギーに係るCO_2排出量

3-1. 評価結果の消費率への置き換え

LR_H　すまいの環境負荷低減性

						評価対象		参照値	
LR_H1　エネルギーと水を大切に使う	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	採点結果	消費率	採点結果	消費率
1 建物の工夫で省エネ									
1.1 建物の熱負荷抑制	150%	125%	100%	–	69%	5.0	69%	3.0	100%
1.2 自然エネルギー利用								3.0	95%
暖房エネルギーの削減						10%	90%		
冷房エネルギーの削減						0%	100%		
2 設備の性能で省エネ									
2.1 暖冷房設備									
1 暖房設備	125%	–	100%	–	75%	3.0	100%	3.0	100%
2 冷房設備	125%	–	100%	–	75%	3.0	100%	3.0	100%
2.2 給湯設備									
1 給湯機器	–	117%	100%	83%	71%	3.0	100%	3.0	100%
2 浴槽の断熱	105%	–	100%	–	95%	5.0	95%	3.0	100%
3 給湯配管	–	111%	100%	94%	89%	5.0	89%	3.0	100%
2.3 照明・家電・厨房機器	125%	–	100%	88%	75%	5.0	75%	3.0	100%
2.4 換気設備	–	–	100%	70%	40%	4.0	70%	3.0	100%
2.5 エネルギー利用効率化設備									
2 太陽光発電システム						0.2		0.0	
3 水の節約									
3.1 節水型設備	115%	–	100%	85%	70%	5.0	70%	3.0	100%
3.2 雨水の利用	–	–	100%	95%	90%	3.0	100%	3.0	100%

3-2. 用途毎の消費率への置き換え、およびCO_2排出量の計算

		kg-CO_2/年m^2	kg-CO_2/年m^2		kg-CO_2/年m^2	
用途	式	基準値	用途別消費率	CO_2換算値	用途別消費率	CO_2換算値
暖房	建物の熱負荷抑制×自然エネルギー利用×暖房設備	8.66	62%	5.36	95%	8.23
冷房	自然エネルギー利用×冷房設備	0.04	100%	0.04	95%	0.04
給湯	給湯機器×浴槽の断熱×給湯配管	10.77	84%	9.07	100%	10.77
照明	照明・家電・厨房機器	3.76	75%	2.82	100%	3.76
家電	照明・家電・厨房機器	7.86	75%	5.90	100%	7.86
調理	照明・家電・厨房機器	1.33	75%	1.00	100%	1.33
換気	換気設備	1.95	70%	1.36	100%	1.95
節水	節水型設備×雨水の利用	1.38	70%	0.97	100%	1.38

3-3. 合計の計算

	kg-CO_2/年m^2	kg-CO_2/年m^2
	評価対象	参照値
合計（Σ（用途別基準値×用途別削減率））　35.76	26.52	35.33
太陽光発電システムでの削減量（基準値合計×削減率）	6.49	0.00
総計（合計-太陽光発電）	20.04	35.33

4. ライフサイクルCO_2の計算（標準計算）

	kg-CO_2/年m^2	kg-CO_2/年m^2
	評価対象	参照値
建設	2.97	8.92
修繕・更新・解体	5.98	3.02
居住	20.04	35.33
合計	**28.99**	**47.26**

CASBEE-すまい（戸建）（2007年版）
参考モデル住宅

■使用評価マニュアル：　CASBEE-すまい（戸建）（2007年版）
■評価ソフト：　CASBEE-H(DH)_2007(v2.0)

ライフサイクルCO_2計算シート（地域電力別計算用）

排出係数（電力）の選択※

標準

※注意
・ ここで選択した排出係数は、居住時のエネルギーに係るCO_2排出量の計算に用いられる。
・ この欄の結果は、「結果」シートの「2-3.ライフサイクルCO2（温暖化影響チャート）」に表示されるが、BEEの計算には用いられない。
・詳しくはマニュアルを参照のこと。

kg-CO_2/kWh

電力会社など	排出係数
標準	0.555
北海道電力	0.502
東北電力	0.510
東京電力	0.368
中部電力	0.452
北陸電力	0.407
関西電力	0.358
四国電力	0.378
九州電力	0.365
その他の電力供給者	

備　考

左表の値は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」による電気の使用に伴う温室効果ガス排出量の算定方法（法第21条の2第2項）に示されている「電気の排出係数」である。
「標準」は「使用している電気の排出係数がわからない場合」の数値であり、各電力会社の排出係数は、環境省令・経済産業省令に基づき2007年4月に公表された値である。
なお、その他は自由入力欄である。

5. ライフサイクルCO_2の計算（地域電力別計算）

	kg-CO_2/年m^2 評価対象	kg-CO_2/年m^2 参照値
建設	2.97	8.92
修繕・更新・解体	5.98	3.02
居住	20.04	35.33
合計	**28.99**	**47.26**

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称　参考ﾓﾃﾞﾙ住宅

設計上の配慮事項	
総合	●高齢者が同居する住まいとして、特に温熱環境・高齢者への配慮に留意した。●内装は木の質感・温もりが感じられる、居心地の良い空間となるように心がけた。●光熱費が削減できるような設備機器を導入した。●近隣住宅・街区との調和のとれた外観に配慮した。
Q_H1 室内環境を快適・健康・安心にする	●次世代断熱仕様、樹脂サッシLow-Eガラスの採用などによる冷暖房負荷の軽減、換気通風、日射調整への配慮をした●VOC等に関連する材料は全てF☆☆☆☆仕様とした。●外部廻り開口部サッシ等は全て2重ロック機能付とした。
Q_H2 長く使い続ける	●地盤調査に基づく積雪を考慮した安全な基礎形状を考慮した。●基本構造となる土台・柱に耐久性のある檜、杉材料を使用し、他構造材にも国産材100%使用とした。●排水スリーブ方式・ヘッダ方式配管など維持管理、交換等を考慮した配管方式を採用した。●JBN住宅履歴情報システムを採用し、長期間の維持管理を可能にした。
Q_H3 まちなみ・生態系を豊かにする	●近隣住宅・街区との調和を重視し、既存の緑地を全てそのまま残し、維持した。●構造材には、できる限り県産材の檜、杉、唐松等を使用した。
LR_H1 エネルギーと水を大切に使う	●南面開口部を広く取り、パッシブな省エネルギー対策とし、屋根には5.1kwの太陽光発電システムを設置した。●照明等は極力蛍光灯やLEDランプのものを採用、省エネ超寿命の製品を採用した。
LR_H2 資源を大切に使いゴミを減らす	●生産段階における廃棄物削減については積極的対策を講じていないが、施工現場においては、リサイクル推進に対する資料を施工者に提供し、着工前に説明を実施する。●内装に少資源・廃棄物抑制材料（石膏ボード等）を使用している
LR_H3 地球・地域・周辺環境に配慮する	●現状の地形は、そのまま保全し、既存の樹木は極力保存した上で、新規に植栽する樹木は雑木を中心に選定する。●騒音・振動・排気・排熱に関しては、発生しない機器を選択した結果エアコンの室外機のみとなり、使用期間も冷房時期に限定されるため、周辺への影響は少ない。
その他	●新築計画建物周辺は、埋蔵文化財包蔵地に指定されており、考古学専門家による立会い試掘調査を行う

■建物名称 参考ﾓﾃﾞﾙ住宅

Q_H1 室内環境を快適・健康・安心にする

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこと

1　暑さ・寒さ

1.1 基本性能

1.1.1 断熱・気密性能の確保

重み係数＝ 0.65

レベル 5	基準
レベル 1	日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級1を満たす。
レベル 2	日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級2を満たす。
レベル 3	日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級3を満たす。
レベル 4	（該当するレベルなし）
■レベル 5	日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級4を満たす。

具体的な取組み（概ね30文字）	長期優良住宅により等級4取得予定、断熱区分Ⅱ地域

1.1.2 日射の調整機能

重み係数＝ 0.35

レベル 3	基準
レベル 1	レベル3を満たさない。
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	該当する開口部の日射侵入率を、夏期に0.60以下とできる。
レベル 4	該当する開口部の日射侵入率を、夏期に0.45以下とできる。
レベル 5	該当する開口部の日射侵入率を、夏期には0.30以下とでき、かつ冬期には概ね0.6以上とできる。

具体的な取組み（概ね30文字）	普通複層ｶﾞﾗｽ0.79、ｶｰﾃﾝ0.67、よって日射侵入率は0.52

1.2 夏の暑さを防ぐ

1.2.1 風を取り込み、熱気を逃がす

重み係数＝ 0.50

レベル 3	基準
レベル 1	レベル3を満たさない。
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	主要な居室において、二方向に開口部がある、または一方向開口でも通風・排熱を促進する取組みがなされている。
レベル 4	（該当するレベルなし）
レベル 5	すべての居室において、二方向に開口部がある、または一方向開口でも通風・排熱を促進する取組みがなされている。

具体的な取組み（概ね30文字）	LDK、寝室1、寝室2には2方向に開口部がある。

1.2.2 適切な冷房計画

重み係数＝ 0.50

レベル 5	基準
レベル 1	主要な居室において、特に配慮なし。
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	居間を含む一体的空間において、適切な冷房計画が行われている。
レベル 4	（該当するレベルなし）
■レベル 5	主要な居室において、適切な冷房計画が行われている。

具体的な取組み（概ね30文字）	LDK4.0kw寝室2.8kw予定

1.3 冬の寒さを防ぐ

1.3.1 適切な暖房計画

重み係数＝ 1.00

レベル 5	基準
レベル 1	主要な居室において、特に配慮なし。
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	居間を含む一体的空間において、適切な暖房計画を行っている。
レベル 4	（該当するレベルなし）
■レベル 5	主要な居室において、適切な暖房計画を行っている。

具体的な取組み（概ね30文字）	全ての居室にパネルヒーター設置

2　健康と安全・安心

2.1 化学汚染物質の対策

重み係数＝ 0.33

レベル 5	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	日本住宅性能表示基準「6-1ホルムアルデヒド対策（内装及び天井裏等）」における等級1を満たしている。
レベル 4	日本住宅性能表示基準「6-1ホルムアルデヒド対策（内装及び天井裏等）」における等級2を満たしている。
■レベル 5	日本住宅性能表示基準「6-1ホルムアルデヒド対策（内装及び天井裏等）」における等級3を満たしている。

具体的な取組み（概ね30文字）	内装・天井裏使用材料の全てがF☆☆☆☆等級相当である。

2.2 適切な換気計画

重み係数＝ 0.33

レベル 5	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	レベル3を満たさない。
レベル 3	台所、便所、浴室で発生する汚染物質に対して、換気等の適切な処理計画がなされている。
レベル 4	（該当するレベルなし）
■レベル 5	レベル3を満たした上で、各居室で必要な換気量ができる計画がなされている。

具体的な取組み（概ね30文字）	局所換気+第3種換気システムを採用

2.3 犯罪に備える

重み係数＝ 0.33

レベル 3	基準
レベル 1	特に対策なし。
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	侵入の可能な規模の開口部のうち、住戸の出入口、および地面から開口部の下端までの高さが2m以下の開口部で、侵入防止対策上何らかの措置が採られている。
レベル 4	侵入の可能な規模の開口部のうち、住戸の出入口、および地面から開口部の下端までの高さが2m以下の開口部で、侵入防止対策上有効な措置が採られている。
レベル 5	レベル4に加え、侵入の可能な規模の開口部のうち、バルコニー等から開口部の下端までの高さが2m以下であって、かつ、バルコニー等から当該開口部までの水平距離が0.9m以下である開口部で、侵入防止対策上有効な措置が採られている。

具体的な取組み（概ね30文字）	全ての開口部に鍵が2箇所以上設置されている。

3　明るさ

3.1 昼光の利用

レベル 5

重み係数＝ 1.00

レベル 3	基準
レベル 1	単純開口率15%未満。
レベル 2	単純開口率15%以上20%未満。
■レベル 3	単純開口率20%以上。
レベル 4	（加点条件を満たせば選択可能）
レベル 5	（加点条件を満たせば選択可能）

加点条件

○	1	「居間を含む一体的空間」において、建築基準法で求められる有効採光面積を南面の窓あるいは天窓で確保しているか、昼光利用設備がある。
○	2	「寝室」において、建築基準法で求められる有効採光面積を南面の窓あるいは天窓で確保しているか、昼光利用設備がある。
		加点数　2 レベル

具体的な取組み（概ね30文字）	単純開効率29%　LDK、他居室は南面より有効採光面積を確保できる。

4　静かさ

重み係数＝ 0.10

レベル 4	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	日本住宅性能表示基準の「8-4透過損失等級（外壁開口部）」における等級1相当の外壁開口部の仕様である。
■レベル 4	日本住宅性能表示基準の「8-4透過損失等級（外壁開口部）」における等級2相当の外壁開口部の仕様である。
レベル 5	日本住宅性能表示基準の「8-4透過損失等級（外壁開口部）」における等級3相当の外壁開口部の仕様である。

具体的な取組み（概ね30文字）	全ての開口部サッシ遮音性はT-1（Rm(1/3)-20）相当以上

■建物名称 参考ﾓﾃﾞﾙ住宅

Q_H2 長く使い続ける

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこと

1　長寿命に対する基本性能

1.1 躯体

重み係数＝ 0.30

レベル 5	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	日本住宅性能表示基準の「3-1劣化対策等級(構造躯体等)」における等級1を満たす。
レベル 4	日本住宅性能表示基準の「3-1劣化対策等級(構造躯体等)」における等級2を満たす。
■レベル 5	日本住宅性能表示基準の「3-1劣化対策等級(構造躯体等)」における等級3を満たす

具体的な取組み(概ね30文字)	長期優良住宅により等級3取得予定

1.2 外壁材

レベル 3	重み係数＝ 0.10
レベル 3	基準
レベル 1	耐用性が12年未満しか期待されない。
レベル 2	12～25年未満の耐用性が期待される。
■レベル 3	25～50年未満の耐用性が期待される。
レベル 4	50～100年の耐用性が期待される。
レベル 5	(加点条件を満たせば評価可能)

加点条件

	a	外壁材を交換する際に、外壁材より耐用性の高い躯体(または下地材)を破損しない構造または取り付け方法が採用されている。
	b	外壁材を交換する際に、外壁材と耐用性が同等である外装建具を破損しない構造または取り付け方法が採用されている。
	c	外壁材を構成する部品がユニット化されていることにより、構成単位毎の更新が可能である。
		加点数　0 レベル

具体的な取組み(概ね30文字)	外部仕様はﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ弾性ﾀｲﾙ吹付け

1.3 屋根材、陸屋根

レベル 5	重み係数＝ 0.10
レベル 4	基準
レベル 1	耐用性が12年未満しか期待されない。
レベル 2	12～25年未満の耐用性が期待される。
レベル 3	25～50年未満の耐用性が期待される。
■レベル 4	50～100年の耐用性が期待される。
レベル 5	(加点条件を満たせば評価可能)

加点条件

屋根材で評価	屋根材で評価する場合		防水層で評価する場合		
○	a	屋根材を交換する際に、屋根材より耐用性の高い下地(野地板)を破損しない構造または取り付け方法が採用されている。	その1. 交換容易性	a	防水材を交換する際に、防水材より耐用性の高い外装建具(サッシ、ドア)を破損しない構造または取り付け方法が採用されている。
	b	屋根を構成する部品がユニット化されていることにより、構成単位毎の更新が可能である。		b	防水層を構成する部品がユニット化されていることにより、構成単位毎の更新が可能である。
			その2. 劣化低減処置	a	防水材の劣化を低減させる処置が施されている
				b	防水層断絶に対して適切な処置が施されている
					加点数　1 レベル

具体的な取組み(概ね30文字)	屋根材は陶器洋瓦を使用する。

1.4 自然災害に耐える

重み係数＝ 0.30

レベル 4	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	日本住宅性能表示基準の「1-1耐震等級(構造躯体の倒壊等防止)」における等級1を満たす。
■レベル 4	日本住宅性能表示基準の「1-1耐震等級(構造躯体の倒壊等防止)」における等級2を満たす。
レベル 5	日本住宅性能表示基準の「1-1耐震等級(構造躯体の倒壊等防止)」における等級3を満たす。

具体的な取組み(概ね30文字)	長期優良住宅により等級2を取得予定

1.5 火災に備える

1.5.1 火災に耐える構造(開口部以外)

重み係数＝ 0.65

レベル 1	基準
■レベル 1	日本住宅性能表示基準の「2-6. 耐火等級(延焼のおそれのある部分(開口部以外))」における等級1を満たす。
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	日本住宅性能表示基準の「2-6. 耐火等級(延焼のおそれのある部分(開口部以外))」における等級2を満たす。
レベル 4	日本住宅性能表示基準の「2-6. 耐火等級(延焼のおそれのある部分(開口部以外))」における等級3を満たす。
レベル 5	日本住宅性能表示基準の「2-6. 耐火等級(延焼のおそれのある部分(開口部以外))」における等級4を満たす。

具体的な取組み(概ね30文字)	性能評価耐火等級1(建物周辺状況や防火基準地域外であることを考慮した)

1.5.2 火災の早期感知

重み係数(既定)＝ 0.35

レベル 4	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	日本住宅性能表示基準の「2-1. 感知警報装置設置等級(自住宅火災時)」における等級1を満たす。
■レベル 4	日本住宅性能表示基準の「2-1. 感知警報装置設置等級(自住宅火災時)」における等級2を満たす。
レベル 5	日本住宅性能表示基準の「2-1. 感知警報装置設置等級(自住宅火災時)」における等級3以上を満たす。

具体的な取組み(概ね30文字)	性能評価感知警報装置等級2(全居室、階段上に火災警報器設置)

2 維持管理

2.1 維持管理のしやすさ

レベル 5

重み係数＝ 0.65

レベル 4	基準
レベル 1	日本住宅性能表示基準の「4-1. 維持管理対策等級(専用配管)」における等級1を満たす。
レベル 2	(加点条件を満たせば評価可能)
レベル 3	日本住宅性能表示基準の「4-1. 維持管理対策等級(専用配管)」における等級2を満たす。
■レベル 4	日本住宅性能表示基準の「4-1. 維持管理対策等級(専用配管)」における等級3を満たす。
レベル 5	(加点条件を満たせば評価可能)

加点条件

○	その1. 配管の増設・交換容易性	a	給水ヘッダー方式または給湯ヘッダー方式を採用している。
		b	床下集合配管システム(排水ヘッダー方式、集中排水マス方式等)を採用している。
	その2. 電気幹線容量計画	a	電気・ガス併用住宅の場合、「内線規程3605-1」に基づいた負荷以上の想定を行って電気幹線容量を設計している。 電気幹線の設計容量VA ≧ 40VA／㎡ × 延べ面積㎡ ＋ X 注)Xは延べ面積に応じて決まる値。詳しくはマニュアルを参照のこと。
		b	全電化住宅の場合、以下の想定を行って電気幹線容量を設計している。 電気幹線の設計容量VA ≧ (60VA／㎡ × 延べ面積㎡ ＋ X) × 0.7 ＋ 夜間蓄熱式機器容量VA
			加点数 1 レベル

具体的な取組み(概ね30文字)	長期優良住宅により等級3取得予定、給水配管ヘッダー方式採用

2.2 維持管理の体制

重み係数＝ 0.35

レベル 5	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	取組みなし。
レベル 4	評価する取組みのうち1つに該当する。
■レベル 5	評価する取組みのうち2つ以上に該当する。

評価する取組み

採点	No.	取組み
○	1	定期点検及び維持・補修・交換が適正時期に提供できる仕組みがある。
○	2	住まい手が適切な維持管理を継続するための、情報提供(マニュアルや定期情報誌など)や相談窓口などのサポートの仕組みがある。
○	3	住宅の基本情報(設計図書、施工記録、仕様部材リスト等)及び建物の維持管理履歴が管理され、何か不具合が生じたときに追跡調査できる。
合計＝	3	

具体的な取組み(概ね30文字)	JBN住宅履歴システムを使用する。

3 機能性

3.1 広さと間取り

重み係数＝ 0.50

レベル 4	基準			
	＜入居者数 4人＞	＜入居者数 3人＞	＜入居者数 2人＞	＜入居者数 1人＞
レベル 1	(該当するレベルなし)	(該当するレベルなし)	(該当するレベルなし)	(該当するレベルなし)
レベル 2	延べ面積 ＜ 50㎡	延べ面積 ＜ 40㎡	延べ面積 ＜ 30㎡	延べ面積 ＜ 25㎡
レベル 3	50㎡≦ 延べ面積 ＜125㎡	40㎡≦ 延べ面積 ＜ 100㎡	30㎡≦ 延べ面積 ＜ 75㎡	25㎡≦ 延べ面積 ＜ 55㎡
■レベル 4	125㎡≦ 延べ面積	100㎡≦ 延べ面積	75㎡≦ 延べ面積	55㎡≦ 延べ面積
レベル 5	(加点条件を満たせば評価可能)	(加点条件を満たせば評価可能)	(加点条件を満たせば評価可能)	(加点条件を満たせば評価可能)

加点条件

	1	専用の台所その他の家事スペース、便所(原則として水洗便所)、洗面所及び浴室が確保されている。
○	2	世帯構成に対応した適正な規模の収納スペースが確保されている。
		加点数 0 レベル

具体的な取組み(概ね30文字)	4人家族、延べ床145.35㎡、各所に収納ｽﾍﾟｰｽ確保

3.2 バリアフリー対応

重み係数＝ 0.50

レベル 5	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	日本住宅性能表示基準「9-1高齢者等配慮対策等級(専用部分)」における等級1を満たす。
レベル 3	日本住宅性能表示基準「9-1高齢者等配慮対策等級(専用部分)」における等級2を満たす。
レベル 4	日本住宅性能表示基準「9-1高齢者等配慮対策等級(専用部分)」における等級3を満たす。
■レベル 5	日本住宅性能表示基準「9-1高齢者等配慮対策等級(専用部分)」における等級4以上を満たす

具体的な取組み(概ね30文字)	住宅性能評価高齢者等配慮対策等級4を取得

■建物名称　参考ﾓﾃﾞﾙ住宅

Q_H3 まちなみ・生態系を豊かにする

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこと

1　まちなみ・景観への配慮

重み係数＝　0.30

レベル 3	基準
レベル 1	周辺のまちなみや景観に対して配慮が行われておらず、まちなみや景観から突出し、調和していない。
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	周辺のまちなみや景観に対して配慮しているが、レベル4は満たさない。
レベル 4	評価する取組み1を行っている。または評価する取組み2の①～⑤のいずれか2つを行っている。
レベル 5	評価する取組み1を行った上に取組み2の①～⑤のうちいずれか1つを行っている。 または、評価する取組み2の①～⑤のうち、いずれか3つ以上を行っている。

評価する取組み

採点	No.	分類	取組み	
一部	1	近隣住宅・街区との調和	以下の要素が近隣の住宅地景観から突出せず、連続或いは調和させている。 ・住宅本体の配置（特に前面道路との関係） ・住宅本体の高さ・屋根形状 ・住宅本体の外壁・屋根の色彩 ・接道部の塀・垣、緑 ・その他、カーポート、屋外設備、物置などの配置、色、形状	
	2	まちなみ・地域景観への積極的な配慮	①	庭のつくり方や植栽の樹種、配置に、地域のまちなみに寄与するような配慮がされている。
			②	照明・ファニチュア・塀・垣などにより、道や通りを演出し、景観形成に寄与している。
○			③	建築設備機器・ゴミ収集設備などをルーバーや植栽などで目立たない工夫をしている。
			④	建物意匠や外構計画により、場所に応じた演出をしている。
			⑤	地域の景観計画等に基づいた取り組みを行っている。
合計(取組み2)＝	1			

具体的な取組み（概ね30文字）	長期優良住宅環境基準（法第6条1項3号）に適合

2　生物環境の創出

2.1 敷地内の緑化

重み係数＝　0.65

レベル 2	基準
レベル 1	レベル2を満たさない。
■レベル 2	外構面積の20%以上の緑化面積を確保している。
レベル 3	外構面積の30%以上の緑化面積を確保している。
レベル 4	外構面積の40%以上の緑化面積を確保している。
レベル 5	外構面積の50%以上の緑化面積を確保している。

具体的な取組み（概ね30文字）	既存緑地を現状のまま維持管理する。

2.2 生物の生息環境の確保

重み係数＝　0.35

レベル 3	基準
レベル 1	特に配慮なし。
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	評価する取組みの1～5のうち、何れか1つ以上に取組んでいる。
レベル 4	（該当するレベルなし）
レベル 5	評価する取組みの1～5のうち、何れか3つ以上に取組んでいる。

評価する取組み

採点	No.	取組み	
	1	〈移動経路の確保〉	野鳥等が地域の中を移動することができるよう緑を連続させることに取組んでいる。
	2	〈餌場の確保〉	野鳥等が餌とすることができる食餌木を植栽すること等に取組んでいる。
○	3	〈住み処・隠れ場の確保〉	野鳥等が隠れたり営巣したりできる空間の確保に取組んでいる。
	4	〈水場の確保〉	野鳥等が水を飲んだり水浴びができるような水場の確保に取組んでいる。
	5	〈多孔質な空間の確保〉	より小さな生き物が生息・生育できるよう多孔質な資材を活用している。
合計＝	1		

具体的な取組み（概ね30文字）	既存緑地を現状のまま維持管理する。

3　地域の安全・安心

重み係数＝　0.20

レベル 5	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	評価する取組み1～4のうち、何れの手法も採用していない。
レベル 4	評価する取組み1～4のうち、何れかの手法を採用している。
■レベル 5	評価する取組み1～4のうち、2つ以上の手法を採用している。

評価する取組み

採点	No.	取組み
○	1	避難路・消火活動空間の確保
	2	防火性の高い植物の植樹
○	3	見通しの確保
	4	その他
合計＝	2	

具体的な取組み（概ね30文字）	敷地境界は、低い生垣とする。外部ｾﾝｻｰﾗｲﾄ設置

4　地域の資源の活用と住文化の継承

重み係数＝　0.20

レベル 4	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	評価する取組みの1～5のうち、何れにも取組んでいない。
■レベル 4	評価する取組みの1～5のうち、何れか1つに取組んでいる。
レベル 5	評価する取組みの1～5のうち、何れか2つ以上に取組んでいる。

評価する取組み

採点	分類	No.	取組み
	地域の住宅文化の継承	1	地域で育まれてきた住宅や庭づくりの構法・意匠・技術を採用している。
		2	地域を象徴する庭園等の保全や、地域の住文化を象徴する住宅等建物の保存・復元をしている。
		3	住宅の構造材や内外装材、外構資材に地域性のある材料を一部使用している（地域の山林から産出される木材を除く）。
○	地域で産出される木材資源の活用	4	住宅の構造躯体に、地域の山林から産出される木材資材を積極的に活用している。
		5	住宅の内外装材・外構資材に、積極的に地域の山林から産出される木材資源を活用している。
合計＝	1		

具体的な取組み（概ね30文字）	長野県産の赤松・杉等を積極的に使用する。

■建物名称 参考ﾓﾃﾞﾙ住宅

LR_H1 エネルギーと水を大切に使う

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこと

1 建物の工夫で省エネ

1.1 建物の熱負荷抑制

重み係数＝ 0.50

レベル 5	基準
レベル 1	日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級1を満たす。
レベル 2	日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級2を満たす。
レベル 3	日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級3を満たす。
レベル 4	(該当するレベルなし)
■レベル 5	日本住宅性能表示基準「5-1省エネルギー対策等級」における等級4を満たす。

具体的な取組み(概ね30文字)	性能評価省エネルギー対策等級Ⅱ地域等級4を取得

1.2 自然エネルギー利用

重み係数＝ 0.50

レベル 3	基準
レベル 1	レベル3を満たさない。
レベル 2	(該当するレベルなし)
■レベル 3	日射熱の利用により暖房エネルギーを10%程度削減できる。㈱るいは、自然風の利用により冷房エネルギーを10%程度削減できる。
レベル 4	日射熱の利用により暖房エネルギーを20%程度削減できる。㈱るいは、自然風の利用により冷房エネルギーを20%程度削減できる。
レベル 5	日射熱の利用により暖房エネルギーを20%程度削減でき、㈱つ自然風の利用により冷房エネルギーを20%程度削減できる。

注)沖縄県では「暖房エネルギー削減(日射熱の利用)」を、寒冷地では「冷房エネルギー削減(自然風の利用)」を評価対象外とする。
この場合、レベル4は評価せず、評価対象を20%程度削減できればレベル5と評価する。

採点	項目	取組み	評価
1	日射熱の利用	暖房エネルギーを10%程度削減	1
		暖房エネルギーを20%程度削減	2
0	自然風の利用	冷房エネルギーを10%程度削減	1
		冷房エネルギーを20%程度削減	2

具体的な取組み(概ね30文字)	暖房:ろ地域・立地3・方位2・手法1、冷房:取り組み無し

2 設備の性能で省エネ

2.1 暖冷房設備

2.1.1 暖房設備

重み係数＝ 0.80

レベル 3	基準
レベル 1	居間を含む一体的空間において、特に取組みなし。
レベル 2	(該当するレベルなし)
■レベル 3	居間を含む一体的空間において、機器効率が一般的な暖房設備を採用している。
レベル 4	(該当するレベルなし)
レベル 5	居間を含む一体的空間において、機器効率が高い暖房設備を採用している。

具体的な取組み(概ね30文字)	深夜電力蓄熱式暖房システム

2.1.2 冷房設備

重み係数＝ 0.20

レベル 3	基準
レベル 1	居間を含む一体的空間において、特に取組みなし。
レベル 2	(該当するレベルなし)
■レベル 3	居間を含む一体的空間において、機器効率が一般的な冷房設備を採用している。
レベル 4	(該当するレベルなし)
レベル 5	居間を含む一体的空間において、機器効率が高い冷房設備を採用している。

具体的な取組み(概ね30文字)	平均的な冷房機器を使用

2.2 給湯設備

2.2.1 給湯機器

レベル 3	重み係数＝ 0.80
レベル 3	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	下記以外
■レベル 3	電気温水器(通電制御型)
レベル 4	燃料系瞬間式給湯器
レベル 5	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器、電気ヒートポンプ式給湯機、太陽熱温水器、 太陽熱給湯システム(自然循環式/直接集熱、強制循環式/直接集熱、強制循環式/間接集熱)

具体的な取組み(概ね30文字)	深夜電力蓄熱式給湯システム

2.2.2 浴槽の断熱

重み係数＝ 0.10

レベル 5	基準
レベル 1	非断熱タイプの浴槽部分を断熱外皮の外側に露出して設置する場合。
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	非断熱タイプの浴槽部分を断熱外皮の内側に設置する場合、あるいは断熱タイプの浴槽部分を断熱外皮の外側に露出して設置する場合。
レベル 4	(該当するレベルなし)
■レベル 5	断熱タイプの浴槽部分を、断熱外皮の内側に設置する場合。

具体的な取組み(概ね30文字)	基礎断熱空間内に断熱保温浴槽を設置

2.2.3 給湯配管

重み係数＝ 0.10

レベル 5	
レベル 3	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	先分岐方式給湯配管を採用した場合。
■レベル 3	ヘッダー方式給湯配管を採用した場合。
レベル 4	(加点条件をみたせば評価可能)
レベル 5	(加点条件をみたせば評価可能)

加点条件

○	1	住宅の断熱外皮貫通部から給湯機器までの給湯配管延長が5m以下である場合、または、断熱外皮の室内側に給湯機器が設置されている場合はレベルを1あげることができる。
○	2	住宅の断熱外皮貫通部から給湯機器までの給湯配管に断熱がなされている場合、レベルを1上げることができる。
	3	浴槽の追い焚き配管全般に断熱がなされている場合、レベルを1上げることができる。
		加点数　2 レベル

具体的な取組み(概ね30文字)	ﾍｯﾀﾞｰ方式採用、給湯配管5m以下・断熱被服あり

2.3 照明・家電・厨房機器

重み係数＝ 0.25

レベル 5	基準
レベル 1	下記採点表による採点が、2点未満
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	下記採点表による採点が、2点以上4点未満
レベル 4	下記採点表による採点が、4点以上7点未満
■レベル 5	下記採点表による採点が、7点

評価する取り組み

採点	項目			取組み	点数
2 点	採点表1	1)照明機器		省エネ基準達成率100%以上	2
2 点		2)電気冷蔵庫		多段階評価3つ星以上	2
1 点	採点表2	3)電気便座		省エネ基準達成率100%以上	1
1 点		4)テレビ	液晶・プラズマ	多段階評価3つ星以上	1
			ブラウン管	多段階評価3つ星以上	1
1 点		5)ガスこんろ		省エネ基準達成率100%以上	1
	採点表3	6)電気クッキングヒーター		IHクッキングヒーター （こんろ口数の1／2以上がIH加熱方式のも	1
合計＝	7点				

具体的な取組み(概ね30文字)	ｵｰﾙ電化住宅

2.4 換気設備

重み係数＝ 0.05

レベル 4	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	一般の換気システムを採用している。
■レベル 4	一般の換気システムに比べ、消費電力が70%以下の換気システムを採用している。
レベル 5	一般の換気システムに比べ、消費電力が40%以下の換気システムを採用している。

具体的な取組み(概ね30文字)	年間消費電力2.7kwh/年・(m3/h)

2.5 エネルギー利用効率化設備

2.5.1 家庭用ｺｰｼﾞｪﾈﾚｰｼｮﾝｼｽﾃﾑ

重み係数＝ 1.00

レベル 3	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
■レベル 3	取組みなし。
レベル 4	家庭用コージェネレーションシステムを導入しており、レベル5を満たさない場合。
レベル 5	家庭用コージェネレーションシステムを導入し、エネルギー利用の高い効果が期待できる場合。

具体的な取組み(概ね30文字)	取り組み無し

2.5.2 太陽光発電システム

省エネルギー率k		太陽光発電システムによる発電エネルギー量		住宅全体の一次エネルギー消費量
0.181	＝	19.000 (GJ／年)	／	104.762 (GJ／年)

具体的な取組み(概ね30文字)	太陽光発電システム5.12KW搭載

3 水の節約

3.1 節水型設備

重み係数＝ 0.75

レベル 5	基準
レベル 1	取組みなし。
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	評価する取組みのいずれかを採用している。
レベル 4	評価する取組みの内、2つ以上を採用している。
■レベル 5	評価する取組みの内、3つ以上を採用している。

評価する取り組み

採用数	No.	取組み
2	1	節水型便器(大小洗浄切替機能付、洗浄水量:大8L/回、小6L/回以下)
1	2	浴室サーモスタット水栓＋手元止水機構付節水シャワーヘッド
1	3	食器洗い洗浄機 ||	4	その他の削減手法(容易な水量調整/止水機構付水栓など)
合計＝	4	

具体的な取組み(概ね30文字)	トイレは1・2階に1箇所づつあり

3.2 雨水の利用

重み係数＝ 0.25

レベル 3	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
■レベル 3	取組みなし。
レベル 4	散水等に利用する雨水タンクを設置している。
レベル 5	トイレ洗浄水等に利用する浄化機能付き雨水利用システムを設置している。

具体的な取組み(概ね30文字)	取り組み無し

4 維持管理と運用の工夫

4.1 住まい方の提示

重み係数＝ 0.50

レベル 4	基準
レベル 1	取組みなし。
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	設備毎の取扱説明書が居住者に手渡されている。
■レベル 4	レベル3に加え、省エネに関する住まい方について一般的な説明がすまい手になされている。
レベル 5	レベル3に加え、当該住宅に採用された設備や仕様に関して、個別の建物・生活スタイルごとに対応した適切な説明がすまい手になされている。

具体的な取組み(概ね30文字)	住まいの手引き書がある。

4.2 エネルギーの管理と制御

重み係数＝ 0.50

レベル 4	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	取組みなし。
■レベル 4	エネルギー消費に関する表示機器、負荷低減装置等を採用している。
レベル 5	エネルギーを管理する仕組みがあり、それにより消費エネルギーの削減が可能である取り組みがなされている。

具体的な取組み(概ね30文字)	太陽光発電システムを導入することにより、消費電力をモニターできる。

■建物名称 参考ﾓﾃﾞﾙ住宅

LR_H2 資源を大切に使いゴミを減らす

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこ

1　省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用
1.1 構造躯体

		木質系	鉄骨系	コンクリート系
レベル 5.0	構造の比率(床面積)入力欄	1	0	0

1.1.1 木質系住宅

レベル 5　　重み係数＝ 1.00

レベル 5	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	レベル4を満たさない。
レベル 4	構造躯体の過半に「持続可能な森林から産出された木材」が使用されている。
■レベル 5	構造躯体の全てに「持続可能な森林から産出された木材」が使用されている。

加点条件

	その1	「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」(林野庁)における「①森林認証制度およびCoC認証制度を活用する方法」、「②業界団体の自主的行動規範による方法」または「③個別事業者の独自の取組による方法」によって合法性、持続可能性が証明された木材を使用している
	その2	構造躯体の一部あるいは過半に、既存建築躯体等のリユース材が使用されている
		加点数　0 レベル

具体的な取組み(概ね30文字)	構造材、羽柄材に国産材100%使用する。

1.1.2 鉄骨系住宅

レベル 0　　重み係数＝ 0.00

	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	構造躯体に電炉鋼が使用されていない、または確認することができない。
レベル 4	構造躯体の一部に電炉鋼が使用されている。
レベル 5	構造躯体の過半に電炉鋼が使用されている。

加点条件

	構造躯体の一部あるいは過半に、既存建築躯体等のリユース材が使用されている
	加点数　0 レベル

具体的な取組み(概ね30文字)	

1.1.3 コンクリート系住宅

重み係数＝ 0.00

	基準
レベル 1	(該当するレベルなし)
レベル 2	(該当するレベルなし)
レベル 3	評価する取組み1～2のうち、何れにも該当しない。
レベル 4	評価する取組み1～2のうち、1つに該当する。
レベル 5	評価する取組み1～2のうち、2つに該当する。

評価する取組み

採点	No.	取組み
	1	構造躯体コンクリートに混合セメント(高炉セメント、フライアッシュセメント)またはエコセメントを用いている。(捨てコン、腰壁への使用は評価しない。)
	2	構造躯体コンクリートに再生骨材またはコンクリート用スラグ骨材を用いている。(捨てコン、腰壁への使用は評価しない。)
合計＝	0	

具体的な取組み(概ね30文字)	

1.2 地盤補強材・地業・基礎

重み係数＝ 0.20

レベル 3	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	評価する取組み1～3のうち、何れにも該当しない。
レベル 4	評価する取組み1～3のうち、1つに該当する。
レベル 5	評価する取組み1～3のうち、2つ以上に該当する。

評価する取組み

採点	No.	取組み
	1	混合セメント（高炉セメント、フライアッシュセメント）またはエコセメントを用いている。
	2	再生骨材またはコンクリート用スラグ骨材を用いている。
	3	地盤改良材として、地盤改良用製鋼スラグを用いている。
合計＝	**0**	

具体的な取組み（概ね30文字）	普通コンクリートセメントを使用

1.3 外装材

レベル 1	
レベル 1	基準
■レベル 1	レベル3を満たさない。
レベル 2	（加点条件をみたせば評価可能）
レベル 3	0.4≦評価する取組みにおける得点率（③）＜0.6
レベル 4	0.6≦評価する取組みにおける得点率（③）＜0.8
レベル 5	0.8≦評価する取組みにおける得点率（③）

重み係数＝ 0.20

評価する取組み

採点	No.	取組み	評価ポイント		
			取組み大	取組み小	取組みなし
0 点	1	屋根葺材（勾配屋根の場合）または防水材（陸屋根の場合）への省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
0 点	2	屋根下地材（勾配屋根の場合）または防水下地材（陸屋根の場合）への省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
1 点	3	外壁材への省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
1 点	4	外壁下地材への省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
0 点	5	断熱材への省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
①合計＝	**2点**	②最高得点＝ **10点**	③得点率（①÷②）＝		**0.20**

加点条件

	外装の一部あるいは過半に、既存建築躯体等のリユース材が使用されている
	加点数 **0** レベル

具体的な取組み（概ね30文字）	躯体、外壁下地材に「持続可能な森林から算出された木材」が使われている。

1.4 内装材

レベル 3	
レベル 3	基準
レベル 1	レベル3を満たさない。
レベル 2	（加点条件をみたせば評価可能）
■レベル 3	0.4≦評価する取組みにおける得点率（③）＜0.6
レベル 4	0.6≦評価する取組みにおける得点率（③）＜0.8
レベル 5	0.8≦評価する取組みにおける得点率（③）

重み係数＝ 0.20

評価する取り組み

採点	No.	取組み	評価ポイント		
			取組み大	取組み小	取組みなし
1 点	1	床仕上げ材への省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
2 点	2	床下地材への省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
1 点	3	内壁仕上げへの省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
1 点	4	内壁下地材への省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
0 点	5	天井仕上げへの省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
1 点	6	天井下地材への省資源・廃棄物抑制に役立つ材料の採用。	2	1	0
①合計＝	**6点**	②最高得点＝ **12点**	③得点率（①÷②）＝		**0.50**

加点条件

	内装の一部あるいは過半に、既存建築躯体等のリユース材が使用されている
	加点数 0 レベル

具体的な取組み（概ね30文字）	内装下地に持続可能な森林から算出された木材・石膏ボードが使われている。

1.5 外構材

重み係数＝ 0.10

レベル 3	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	下記に示す取組み1～4のうち、何れも採用していない。
レベル 4	（該当するレベルなし）
レベル 5	下記に示す取組み1～4のうち、何れかを採用している。

評価する取組み

採点	No.	取組み	
	1	リサイクル材の使用	・窯業廃土、廃ガラス等から製造した舗装用ブロックの通路、駐車場への使用 ・木粉と熱可塑性樹脂から製造した人工木材を利用した屋外デッキ設置 ・その他、廃棄物や他産業の副産物を利用した外構材の使用
	2	リユース材の使用	・再利用石材による敷石 ・古レンガを利用した花壇
	3	「持続可能な森林から産出された木材」の使用	・「持続可能な森林から産出された木材」を利用した屋外デッキの設置
	4	利用可能になるまでの期間が短く資源枯渇の恐れが少ない植物由来の自然素材の使用	・竹製品の使用 ・その他、利用可能になるまでの期間が短く資源枯渇の恐れが少ない植物由来の自然素材の外構への応用

具体的な取組み（概ね30文字）	取り組み無し

2　生産・施工段階における廃棄物削減

2.1 生産段階（構造用躯体部材）

重み係数＝ 0.33

レベル 3	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	構造躯体用部材の生産・加工段階における副産物の発生抑制、リサイクル推進に対する取組みの指示が無く、かつ実際の取組みも行われていない。
レベル 4	（該当するレベルなし）
レベル 5	構造躯体用部材の生産・加工段階における副産物の発生抑制、リサイクル推進に対する取組みについて設計図書等で指示されているか、または実際の取組みが行われている。

具体的な取組み（概ね30文字）	取り組み無し

2.2 生産段階（構造用躯体以外の部材）

重み係数＝ 0.33

レベル 3	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	レベル4を満たさない。
レベル 4	生産・加工段階で副産物の発生抑制、リサイクル推進に取組んでいる構造躯体用部材以外の建材を1つあるいは2つ採用するよう設計図書等で指示されているか、実際の取組みが行われている。
レベル 5	生産・加工段階で副産物の発生抑制、リサイクル推進に取組んでいる構造躯体用部材以外の建材を3つ以上採用するよう設計図書等で指示されているか、実際の取組みが行われている。

具体的な取組み（概ね30文字）	取り組み無し

2.3 施工段階

重み係数＝ 0.33

レベル 5	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	施工段階における副産物の発生抑制、リサイクル推進に対する取組みの指示が無く、かつ実際の取組みも行われていない。
レベル 4	（該当するレベルなし）
■レベル 5	施工段階における副産物の発生抑制、リサイクル推進に対する取組みについて設計図書等で指示されているか、または実際の取組みが行われている。

具体的な取組み（概ね30文字）	基礎メタルフォーム使用、プレカット利用の現場加工削減

3　リサイクルの促進

3.1 使用材料の情報提供

重み係数＝ 1.00

レベル 5	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	住まい手に対して、住宅に使用されている材料のリサイクルや廃棄に対する情報提供を行っていない。
レベル 4	（該当するレベルなし）
■レベル 5	住まい手に対して、住宅に使用されている材料のリサイクルや廃棄に対する何らかの情報提供を行っている。

具体的な取組み（概ね30文字）	使用材料のメーカー、製品名、型番等の情報表示を行っている。

■建物名称 参考ﾓﾃﾞﾙ住宅

LR_H3 地球・地域・周辺環境に配慮する

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこ

1　地球温暖化への配慮

重み係数＝ 0.33

レベル 5.0	基準
レベル1 ～ レベル5	本採点項目のレベルはライフサイクルCO_2の排出率を1～5に換算した値（小数第1位まで）で表される。 なお、レベル1、3、5は以下の排出率で定義される。 レベル1 ：ライフサイクルCO_2排出率が、一般的な住宅（参照値）に対して125%以上 レベル3 ：ライフサイクルCO_2排出率が、一般的な住宅（参照値）と同等 レベル5 ：ライフサイクルCO_2排出率が、一般的な住宅（参照値）に対して75%以下

ライフサイクルCO_2概算値　　kg-CO_2/年㎡

	建設	修繕・更新・解体	居住	合計	排出率
参照値	8.92	3.02	35.33	47.26	100%
評価対象	2.97	5.98	20.04	28.99	**61%**

ライフサイクルCO_2排出率に基づくスコア換算

換算スコア＝ **5.0**

2　地域環境への配慮

2.1 地域インフラの負荷抑制

重み係数＝ 0.50

レベル 4	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	評価する取組み1～6のうち、何れも採用していない。
レベル 3	評価する取組み1～6のうち、何れかの1つに取組んでいる。
■レベル 4	評価する取組み1～6のうち、何れか2つ以上に取組んでいる。
レベル 5	評価する取組み1～6のうち、何れか4つ以上に取組んでいる。

評価する取組み

採点	分類	No.	取組み
○	雨水排水負荷の抑制	1	外構部への降雨を浸透させるため、外構面積の過半を植栽地（池を含む）や透水性舗装など透水性を有する仕上げとしている。
○		2	屋根への降雨を浸透させるため、雨水地下浸透施設（浸透ます、浸透トレンチ等）を設置している。
		3	雨水貯留・利用設備を設置している。
	生活ごみ処理負荷の抑制	4	生ごみの排出量を削減するため、生ごみ処理設備を設置している
		5	住宅内あるいは外構部に分別ストックスペースを設置している。
	その他	6	汚水排水の浄化設備など、上記以外の地域インフラの負荷抑制に努めている。
合計＝	**2**		

具体的な取組み（概ね30文字）	外構は透水性を有し、屋根雨水は敷地内地下浸透としている。

2.2 既存の自然環境の保全

重み係数＝ 0.50

レベル 5	基準
レベル 1	既存の自然環境・自然資源の保全について全く配慮がされていない。
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	既存の自然環境・自然資源の保全について、標準的な配慮や取組みを一部行っている（ポイント1以上）
レベル 4	既存の自然環境・自然資源の保全について、標準的な配慮や取組みを行っている（ポイント2以上）
■レベル 5	既存の自然環境をほとんど改変せず、積極的に保全に努めている（ポイント4以上）

評価する取組み

採点	No.	取組み		ポイント
1.0 ポイント	1	＜地形の保全＞ 従前の地形を改変せず、保全している。		＋1
0.5ポイント	2	＜表土の保全＞ 従前の表土を概ね保全している。（従前の表土が植栽に適さないため、良質な土壌を客土した場合も		＋0.5
2.0ポイント	3	＜既存樹木の保全（中・高木）＞ ①従前生えていた中・高木（樹高2m以上）を保全している。	2本	（1本当り） ＋1
2.5ポイント		＜既存樹木の保全（低木）＞ ②従前生えていた低木（樹高2m未満）を保全している。	5本	（1本（一株）当り）＋0.5
	4	＜郷土種の採用（高木）＞ 新植する高木の半数以上が郷土種（あるいは自生種・地域系統種）である。		＋1
		＜郷土種の採用（中低木）＞ 新植する低木の約半数以上が郷土種（あるいは自生種・地域系統種）である。		＋0.5
合計＝	**6.0ポイント**			

具体的な取組み（概ね30文字）	既存の植木は全てそのまま保持する。

3　周辺環境への配慮

3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減

重み係数＝　0.50

レベル 3	基準
レベル 1	特に配慮なし。
レベル 2	（該当するレベルなし）
■レベル 3	騒音・振動・排気・排熱の発生源が、隣接する住宅等に著しい影響を与えないよう一般的な配慮がなされている。
レベル 4	レベル3に加え、騒音・振動、排気・排熱の発生源に対する、いずれか一部について取り組みがなされている。
レベル 5	レベル3に加え、騒音・振動、排気・排熱の発生源の全てについて取り組みがなされている。

評価する取組み

採点	No.	取組み	
○	レベル3	騒音・振動・排気・排熱の発生源が、隣接する住宅等に著しい影響を与えないよう一般的な配慮がなされている。	
	1	騒音・振動の発生源への取組み	エアコン室外機や給湯設備など、屋外に設置される設備機器などから発生する騒音・振動に対し、低騒音・低振動型の設備機器が採用や設置位置、騒音の伝搬を低減する障壁などの低減方策がとられていること。
	2	排気・排熱の発生源への取組み	燃焼系設備機器やエアコン室外機などの排気口から発する排気・排熱が、隣接する住宅に悪影響を与えないために、設置位置、排気方向を調整する部材や障壁を設けるなどの配慮がなされていること。

具体的な取組み（概ね30文字）	騒音発生源はエアコンの室外機のみである。（敷地境界で45dB以下）

3.2 周辺温熱環境の改善

重み係数＝　0.50

レベル 5	基準
レベル 1	（該当するレベルなし）
レベル 2	（該当するレベルなし）
レベル 3	特に取り組みなし
レベル 4	評価する取り組み1～4のうち1つ以上の取組みをしている
■レベル 5	評価する取り組み1～4のうち2つ以上の取組みをしている

評価する取り組み

採点	No.	取組み	
○	1	敷地周辺への風通しに配慮し、敷地外の熱的な影響を低減する。	①夏期の卓越風向（最も多い風向）に対する、建物の後退距離を確保している。 建物の高さに対する敷地境界からの後退距離の比率 30%以上
	2	敷地内に緑地等（水面を含む）を確保し、敷地外への熱的な影響を低減する。 （①または②に取り組んでいること）	①中・高木やピロティ、ひさし、パーゴラ等を設けることにより、敷地内の日陰の形成に努める。 水平投影面積　20%以上
			②芝生・草本、低木、池を確保することにより、地表面温度や地表面近傍の気温上昇を抑える。 緑被率　10%以上
○	3	地表面被覆材に配慮し、敷地外への熱的な影響を低減する。 （①または②に取り組んでいること）	①アスファルトやコンクリートなどの被覆材で地表面を舗装する範囲を抑制する。 舗装面積率　20%未満
			②地表面に保水性・透水性の高い被覆材や日射反射率の高い被覆材を使用する。 保水性・透水性舗装面積率　10%以上
	4	建築外装材料等に配慮し、敷地外への熱的な影響を低減する。 （①または②に取り組んでいること）	①屋上：屋根緑化等面積率　20%以上 または、日射反射率、長波放射率の高い屋根材を選定　20%以上
			②外壁面：東西南方向の見つけ面積の合計に対する外壁面緑化等面積率　20%以上、 または、日射反射率、長波放射率の高い外壁材料を選定　20%以上
合計＝	2		

具体的な取組み（概ね30文字）	壁面後退距離率65% ＞30%、 敷地内に舗装部分はない

重み係数

重み係数(既定)

		補正後	対象外の選択			建物全体
QH	すまいの環境品質			Q_H	すまいの環境品質	
QH1	室内環境を快適・健康・安心にする	0.450	1.000	Q_H1	室内環境を快適・健康・安心にする	0.45
1	暑さ・寒さ	0.500	1.000	1	暑さ・寒さ	0.50
1.1	基本性能	0.500	1.000	1.1	基本性能	0.50
1.1.1	断熱・気密性能の確保	0.650	1.000	1.1.1	断熱・気密性能の確保	0.65
1.1.2	日射の調整機能	0.350	1.000	1.1.2	日射の調整機能	0.35
1.2	夏の暑さを防ぐ	0.250	1.000	1.2	夏の暑さを防ぐ	0.25
1.2.1	風を取り込み、熱気を逃がす	0.500	1.000	1.2.1	風を取り込み、熱気を逃がす	0.50
1.2.2	適切な冷房計画	0.500	1.000	1.2.2	適切な冷房計画	0.50
1.3	冬の寒さを防ぐ	0.250	1.000	1.3	冬の寒さを防ぐ	0.25
1.3.1	適切な暖房計画	1.000	1.000	1.3.1	適切な暖房計画	1.00
2	健康と安全・安心	0.300	1.000	2	健康と安全・安心	0.30
2.1	化学汚染物質の対策	0.333	1.000	2.1	化学汚染物質の対策	0.33
2.2	適切な換気計画	0.333	1.000	2.2	適切な換気計画	0.33
2.3	犯罪に備える	0.333	1.000	2.3	犯罪に備える	0.33
3	明るさ	0.100	1.000	3	明るさ	0.10
3.1	昼光の利用	1.000	1.000	3.1	昼光の利用	1.00
4	静かさ	0.100	1.000	4	静かさ	0.10
QH2	長く使い続ける	0.300	1.000	Q_H2	長く使い続ける	0.30
1	長寿命に対する基本性能	0.500	1.000	1	長寿命に対する基本性能	0.50
1.1	躯体	0.300	1.000	1.1	躯体	0.30
1.2	外壁材	0.100	1.000	1.2	外壁材	0.10
1.3	屋根材、陸屋根	0.100	1.000	1.3	屋根材、陸屋根	0.10
1.4	自然災害に耐える	0.300	1.000	1.4	自然災害に耐える	0.30
1.5	火災に備える	0.200	1.000	1.5	火災に備える	0.20
1.5.1	火災に耐える構造(開口部以外)	0.650	1.000	1.5.1	火災に耐える構造(開口部以外)	0.65
1.5.2	火災の早期感知	0.350	1.000	1.5.2	火災の早期感知	0.35
2	維持管理	0.250	1.000	2	維持管理	0.25
2.1	維持管理のしやすさ	0.650	1.000	2.1	維持管理のしやすさ	0.65
2.2	維持管理の体制	0.350	1.000	2.2	維持管理の体制	0.35
3	機能性	0.250	1.000	3	機能性	0.25
3.1	広さと間取り	0.500	1.000	3.1	広さと間取り	0.50
3.2	バリアフリー対応	0.500	1.000	3.2	バリアフリー対応	0.50
QH3	まちなみ・生態系を豊かにする	0.250	1.000	Q_H3	まちなみ・生態系を豊かにする	0.25
1	まちなみ・景観への配慮	0.300	1.000	1	まちなみ・景観への配慮	0.30
2	生物環境の創出	0.300	1.000	2	生物環境の創出	0.30
2.1	敷地内の緑化	0.650	1.000	2.1	敷地内の緑化	0.65
2.2	生物の生息環境の確保	0.350	1.000	2.2	生物の生息環境の確保	0.35
3	地域の安全・安心	0.200	1.000	3	地域の安全・安心	0.20
4	地域の資源の活用と住文化の継承	0.200	1.000	4	地域の資源の活用と住文化の継承	0.20
LRH	すまいの環境負荷低減性			LR_H	すまいの環境負荷低減性	
LRH1	エネルギーと水を大切に使う	0.350	1.000	LR_H1	エネルギーと水を大切に使う	0.35
1	建物の工夫で省エネ	0.350	1.000	1	建物の工夫で省エネ	0.35
1.1	建物の熱負荷抑制	0.500	1.000	1.1	建物の熱負荷抑制	0.50
1.2	自然エネルギー利用	0.500	1.000	1.2	自然エネルギー利用	0.50
2	設備の性能で省エネ	0.400	1.000	2	設備の性能で省エネ	0.40
2.1	暖冷房設備	0.270	1.000	2.1	暖冷房設備	0.27
2.1.1	暖房設備	0.800	1.000	2.1.1	暖房設備	0.80
2.1.2	冷房設備	0.200	1.000	2.1.2	冷房設備	0.20
2.2	給湯設備	0.370	1.000	2.2	給湯設備	0.37
2.2.1	給湯機器	0.800	1.000	2.2.1	給湯機器	0.80
2.2.2	浴槽の断熱	0.100	1.000	2.2.2	浴槽の断熱	0.10
2.2.3	給湯配管	0.100	1.000	2.2.3	給湯配管	0.10
2.3	照明・家電・厨房機器	0.250	1.000	2.3	照明・家電・厨房機器	0.25
2.4	換気設備	0.050	1.000	2.4	換気設備	0.05
2.5	エネルギー利用効率化設備	0.060	1.000	2.5	エネルギー利用効率化設備	0.06
2.5.1	家庭用コージェネレーションシステム	1.000	1.000	2.5.1	家庭用コージェネレーションシステム	1.00
2.5.2	太陽光発電システム	0.000	1.000	2.5.2	太陽光発電システム	
3	水の節約	0.150	1.000	3	水の節約	0.15
3.1	節水型設備	0.750	1.000	3.1	節水型設備	0.75
3.2	雨水の利用	0.250	1.000	3.2	雨水の利用	0.25
4	維持管理と運用の工夫	0.100	1.000	4	維持管理と運用の工夫	0.10
4.1	住まい方の提示	0.500	1.000	4.1	住まい方の提示	0.50
4.2	エネルギーの管理と制御	0.500	1.000	4.2	エネルギーの管理と制御	0.50
LRH2	資源を大切に使いゴミを減らす	0.350	1.000	LR_H2	資源を大切に使いゴミを減らす	0.35
1	省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用	0.600	1.000	1	省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用	0.60
1.1	構造躯体	0.300	1.000	1.1	構造躯体	0.30
1.1.1	木質系住宅	1.000	1.000	1.1.1	木質系住宅	1.00
1.1.2	鉄骨系住宅	0.000	0.000	1.1.2	鉄骨系住宅	1.00
1.1.3	コンクリート系住宅	0.000	0.000	1.1.3	コンクリート系住宅	1.00
1.2	地盤補強材・地業・基礎	0.200	1.000	1.2	地盤補強材・地業・基礎	0.20
1.3	外装材	0.200	1.000	1.3	外装材	0.20
1.4	内装材	0.200	1.000	1.4	内装材	0.20
1.5	外構材	0.100	1.000	1.5	外構材	0.10
2	生産・施工段階における廃棄物削減	0.300	1.000	2	生産・施工段階における廃棄物削減	0.30
2.1	生産段階(構造用躯体部材)	0.333	1.000	2.1	生産段階(構造用躯体部材)	0.33
2.2	生産段階(構造用躯体以外の部材)	0.333	1.000	2.2	生産段階(構造用躯体以外の部材)	0.33
2.3	施工段階	0.333	1.000	2.3	施工段階	0.33
3	リサイクルの促進	0.100	1.000	3	リサイクルの促進	0.10
3.1	使用材料の情報提供	1.000	1.000	3.1	使用材料の情報提供	1.00
LRH3	地球・地域・周辺環境に配慮する	0.300	1.000	LR_H3	地球・地域・周辺環境に配慮する	0.30
1	地球温暖化への配慮	0.333	1.000	1	地球温暖化への配慮	0.33
2	地域環境への配慮	0.333	1.000	2	地域環境への配慮	0.33
2.1	地域インフラの負荷抑制	0.500	1.000	2.1	地域インフラの負荷抑制	0.50
2.2	既存の自然環境の保全	0.500	1.000	2.2	既存の自然環境の保全	0.50
3	周辺環境への配慮	0.333	1.000	3	周辺環境への配慮	0.33
3.1	騒音・振動・排気・排熱の低減	0.500	1.000	3.1	騒音・振動・排気・排熱の低減	0.50
3.2	周辺温熱環境の改善	0.500	1.000	3.2	周辺温熱環境の改善	0.50

■CO_2データベース

a. 建設に係るCO_2排出量

($kg-CO_2/年m^2$)

			Q_H2.1.1 躯体								
			木質系			鉄骨系			コンクリート系		
Q_H2.1.2外壁	Q_H2.1.3屋根	Q_H2.2.2管理体制	レベル3	レベル4	レベル5	レベル3	レベル4	レベル5	レベル3	レベル4	レベル5
レベル1	レベル1	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル2	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル3	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル4	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
レベル2	レベル1	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル2	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル3	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル4	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
レベル3	レベル1	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル2	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル3	レベル3	**8.915**	4.457	2.972	**15.051**	7.526	5.018	**16.831**	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル4	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
レベル4	レベル1	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル2	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル3	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
	レベル4	レベル3	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル4	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611
		レベル5	8.915	4.457	2.972	15.051	7.526	5.018	16.831	8.415	5.611

b. 修繕・更新・解体に係るCO_2排出量

($kg-CO_2/年m^2$)

Q_H2.1.2外壁	Q_H2.1.3屋根	Q_H2.2.2管理体制	Q_H2.1.1 躯体 木質系 レベル3	木質系 レベル4	木質系 レベル5	鉄骨系 レベル3	鉄骨系 レベル4	鉄骨系 レベル5	コンクリート系 レベル3	コンクリート系 レベル4	コンクリート系 レベル5
レベル1	レベル1	レベル3	5.197	7.259	8.336	5.133	7.489	8.678	3.267	5.117	5.777
		レベル4	5.197	7.259	8.336	5.133	7.489	8.678	3.267	5.117	5.777
		レベル5	5.197	7.259	8.336	5.133	7.489	8.678	3.267	5.117	5.777
	レベル2	レベル3	5.197	7.259	8.336	5.133	7.489	8.678	3.267	5.117	5.777
		レベル4	4.662	6.722	7.799	4.581	6.938	8.127	3.199	5.051	5.71
		レベル5	4.127	6.722	7.622	4.03	6.938	7.944	3.132	5.051	5.686
	レベル3	レベル3	4.127	6.455	7.622	4.03	6.662	7.944	3.132	5.016	5.686
		レベル4	4.127	6.455	7.266	4.03	6.662	7.576	3.132	5.016	5.644
		レベル5	4.127	6.187	7.266	4.03	6.387	7.576	3.132	4.983	5.644
	レベル4	レベル3	4.127	6.187	7.266	4.03	6.387	7.576	3.132	4.983	5.644
		レベル4	4.127	6.187	7.087	4.03	6.387	7.392	3.132	4.983	5.622
		レベル5	4.127	6.187	7.087	4.03	6.387	7.392	3.132	4.983	5.622
レベル2	レベル1	レベル3	5.197	7.259	8.336	5.133	7.489	8.678	3.267	5.117	5.777
		レベル4	4.645	6.707	7.785	4.542	6.899	8.088	3.267	5.117	5.777
		レベル5	4.094	6.707	7.601	3.952	6.899	7.892	3.267	5.117	5.777
	レベル2	レベル3	5.197	7.259	8.336	5.133	7.489	8.678	3.267	5.117	5.777
		レベル4	4.11	6.17	7.249	3.99	6.347	7.535	3.199	5.051	5.71
		レベル5	3.023	6.17	6.886	2.847	6.347	7.155	3.132	5.051	5.686
	レベル3	レベル3	4.127	6.455	7.622	4.03	6.662	7.944	3.132	5.016	5.686
		レベル4	3.576	5.903	6.713	3.44	6.07	6.984	3.132	5.016	5.644
		レベル5	3.023	5.635	6.528	2.847	5.796	6.788	3.132	4.983	5.644
	レベル4	レベル3	4.127	6.187	7.266	4.03	6.387	7.576	3.132	4.983	5.644
		レベル4	3.576	5.635	6.535	3.44	5.796	6.802	3.132	4.983	5.622
		レベル5	3.023	5.635	6.349	2.847	5.796	6.604	3.132	4.983	5.622
レベル3	レベル1	レベル3	4.094	6.431	7.601	3.952	6.603	7.892	3.267	5.117	5.777
		レベル4	4.094	6.431	7.232	3.952	6.603	7.496	3.267	5.117	5.777
		レベル5	4.094	6.154	7.232	3.952	6.308	7.496	3.267	5.117	5.777
	レベル2	レベル3	4.094	6.431	7.601	3.952	6.603	7.892	3.267	5.117	5.777
		レベル4	3.558	5.895	6.696	3.398	6.052	6.944	3.199	5.051	5.71
		レベル5	3.023	5.62	6.518	2.847	5.757	6.761	3.132	5.051	5.686
	レベル3	レベル3	**3.023**	5.628	6.886	**2.847**	5.776	7.155	**3.132**	5.016	5.686
		レベル4	3.023	5.628	6.161	2.847	5.776	6.393	3.132	5.016	5.644
		レベル5	3.023	5.084	6.161	2.847	5.205	6.393	3.132	4.983	5.644
	レベル4	レベル3	3.023	5.36	6.528	2.847	5.501	6.788	3.132	4.983	5.644
		レベル4	3.023	5.36	5.983	2.847	5.501	6.211	3.132	4.983	5.622
		レベル5	3.023	5.084	5.983	2.847	5.205	6.211	3.132	4.983	5.622
レベル4	レベル1	レベル3	4.094	6.154	7.232	3.952	6.308	7.496	3.267	5.117	5.777
		レベル4	4.094	6.154	7.048	3.952	6.308	7.299	3.267	5.117	5.777
		レベル5	4.094	6.154	7.048	3.952	6.308	7.299	3.267	5.117	5.777
	レベル2	レベル3	4.094	6.154	7.232	3.952	6.308	7.496	3.267	5.117	5.777
		レベル4	3.558	5.62	6.513	3.398	5.757	6.747	3.199	5.051	5.71
		レベル5	3.023	5.62	6.334	2.847	5.757	6.564	3.132	5.051	5.686
	レベル3	レベル3	3.023	5.351	6.518	2.847	5.48	6.761	3.132	5.016	5.686
		レベル4	3.023	5.351	5.977	2.847	5.48	6.197	3.132	5.016	5.644
		レベル5	3.023	5.084	5.977	2.847	5.205	6.197	3.132	4.983	5.644
	レベル4	レベル3	3.023	5.084	6.161	2.847	5.205	6.393	3.132	4.983	5.644
		レベル4	3.023	5.084	5.799	2.847	5.205	6.013	3.132	4.983	5.622
		レベル5	3.023	5.084	5.799	2.847	5.205	6.058	3.132	4.983	5.622

c. 居住時のCO_2排出量

($kg-CO_2/年m^2$)	Ⅱ
暖房	8.66
冷房	0.04
給湯	10.77
照明	3.76
家電	7.86
調理	1.33
換気	1.95
節水	1.38

Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ
12.75	8.66	6.64	3.61	2.39	0.00
0.00	0.04	0.28	0.85	0.86	2.20
8.94	10.77	10.84	10.13	8.26	6.11
3.76	3.76	3.76	3.76	3.76	3.76
7.57	7.86	8.30	8.34	8.01	7.86
1.28	1.33	1.41	1.41	1.36	1.33
1.87	1.95	2.06	2.06	1.98	1.95
1.33	1.38	1.46	1.46	1.41	1.38

d. ライフサイクルCO_2算定条件

Q_H2.1.1 躯体	木質系 レベル3	木質系 レベル4	木質系 レベル5	鉄骨系 レベル3	鉄骨系 レベル4	鉄骨系 レベル5	コンクリート系 レベル3	コンクリート系 レベル4	コンクリート系 レベル5
躯体・基礎の寿命(年)	30	60	90	30	60	90	30	60	90

更新周期(年)

Q_H2.1.2 外壁 / Q_H2.1.2 屋根	Q_H2.2.2管理体制 レベル3	レベル4	レベル5	レベル3	レベル4	レベル5	レベル3	レベル4	レベル5
レベル 1	11	11	11	11	11	11	11	11	11
レベル 2	12	18	24	12	18	24	12	18	24
レベル 3	25	37	49	25	37	49	25	37	49
レベル 4	50	75	100	50	75	100	50	75	100
レベル 5	50	75	100	50	75	100	50	75	100

注意事項
1) Microsoft Excel 2003 for Windows Xpは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国におけ る登録商標です。

2) その他、記載されている会社名、製品名はすべて各社の登録商標または商標です。

3)「CASBEEすまい（戸建） 評価ソフト」は、Microsoft Excel 2003 for Windows Xp上で開発されたデータファイルです。これらのデータファイルは、著作権法上の保護を受けています。開発・著者、企画・発行者の許諾を得ず、無断で複製、転載(改造した場合も含む)することは禁止されております。

4) ただし、この評価ソフトを用いて、利用者の皆様が作成した入力および出力結果を使用する場合はこの限りではありません。その場合、この評価ソフトを利用した旨を明記してください。なお、パソコンの画面画像を使用する場合には、別途、Microsoft Corporationの許諾が必要になる場合がありますのでご注意ください。

5) この評価ソフトおよび操作マニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。

6) この評価ソフトの仕様および操作マニュアルの記載事項は、将来予告なしに変更することがあります。

建築物総合環境性能評価システム　CASBEE-すまい（戸建） 評価ソフト

Microsoft Excel 2003 for Windows Xp版
CASBEE-H(DH)_2007v2.0

2007年 9月発行

編集協力　国土交通省住宅局

ソフト開発者　財団法人 建築環境・省エネルギー機構
日本サステナブル・ビルディング・コンソーシアム
（ 建築物の総合的環境評価研究委員会 ）

企画・発行　財団法人 建築環境・省エネルギー機構

ソフトの内容等に関する問い合わせ
本ソフトの内容に関するご質問は、下記連絡先までE-mailにてお送りください。
なお、回答までに日数を要する場合がありますので、予めご了承ください。
また、Microsoft Windows、Microsoft Excel 2003 for Windows Xp等の操作に関しては、それぞれの操作マニュアルをご覧ください。

財団法人 建築環境・省エネルギー機構
〒102-0071 東京都千代田区富士見2－14－36 FUJIMI WEST
E-Mail casbee-home@ibec.or.jp
URL http://www.ibec.or.jp/